

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成24年9月28日)

Table with project details: 事業コード H24-建-終-5, 事業名 地方道路交付金事業(改築), 事業種別 1次改築(バイパス), 路線名等 (主)湯沢雄物川大曲線, 箇所名 大仙市角間川, 政策コード 17, 施策コード 04, 指標コード 01.

1. 事業の概要

Main evaluation table with sections: 事業の背景及び目的, 事業期間 (H19年 H08年 ~ H21年), 事業規模 (延長L=1,820m), 事業費内訳内容 (事業費 1,546,000), 事業効果の要因変化及び発現状況 (コスト・効果対比較), 指標達成率 (102.9%), 自然環境の変化, 社会経済情勢の変化, 事業終了後の問題点及び管理・利用状況.

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ● 受益者 ○ 一般県民 (時期:平成24年 9月) ②満足度把握の方法 ● アンケート調査 ○ 各種委員会及び審議会 ○ ヒアリング ○ インターネット ○ その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況
	地域住民などから、「走りやすくなった、事故の危険が少なくなった」との評価が得られた。
上位計画での位置付け	ふるさと秋田元気創造プランにおける施策「地域医療などを支える救急ネットワークの整備」を支援する事業
関連プロジェクト等	・地域高規格道路 大曲西道路 H18.10供用
前回評価結果等	●選定または継続 ○改善 ○見直し ○保留又は中止
	①指摘事項 なし
	②指摘事項への対応 なし

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C アンケート調査結果から、回答者の9割以上が事業に満足、概ね満足しているとのことだった。また満足している理由の約6割は安全性が向上したということだった。	●A
	②事業の効果 ●A 達成率100%以上 ○B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 当該事業は、計画通り進捗し、県道改良率の目標に達した。	○B ○C
	①事業の経済性の妥当性 ●A ○B ○C 費用便益比は1.0を上回っていることから、本事業は経済的に妥当であったと評価できる。	●A
効率性	②コスト縮減の状況 ○A 縮減率20%以上 ○B 縮減率20%未満 ○C 縮減なし	○B ○C
	●A (妥当性が高い) ○B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に進捗し、地域住民の利便性の向上や交通安全の確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、当事業は妥当性が高いと評価できる。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や設計段階での現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の算出に努めるとともに、工法の工夫や廃材の再利用などコスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行に努める。 当該道路は地域の生活道路として利用されており、アンケート結果では安全性向上に高い評価が得られたことから、同種の道路整備においても、道路利用者の意見をより一層反映した事業の実施に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	